

東海大学との連携の今後の進め方をどう考えるか？

Q まだ、参加数は少ないものの、それぞれの部会は活発に活動している。今後更にPRを計りながら、多くの参加を促し実りあるものになりたいと思うが、村長の考えは？

A

村長

村に大学の、しかも農学部があるというのは唯一であり、今後の村づくりに更なる力添えを思っているそのようなことから、予算的なことも含め、出来る限りのことをと考えている。

A

企画観光課 長

ひとつにPR方法として、NPO文化支援機構と協力し、村民交流フェスタを開催し、その中で活動状況の発表をすることで村民への周知を図りたい。



ブラックベリーの栽培状況＝東海大学にて

安達 辰喜 議員



Q

スポーツ振興の推進について

A

村長

スポーツの振興・発展については勝負を競い合う種目、あるいは健康づくりを進めていくような種目、スポーツ全体の振興・発展を図り、元気のいい村づくりにつなげていきたい気持ちでマニフェストに掲げているので、まずは体協体育協会の支援もしっかりしていきたいと考えている。

教育においても生徒数が揃う事が大事なことであり、スポーツを取り巻く環境を整備し応援をしていく事が私の基本的な考えである。

Q

合宿誘致について

A

村長

またプロスポーツの合宿誘致については、シーズンオフに自分

たちで自主トレするのでその受け皿としては現在の施設で十分だと思っている。今の状態の中でできることを前提として進めてみたいと考えている。

Q

空き施設の有効利用について

A

村長

空き施設の文化面その他での利用については、小学校の統合、あるいは庁舎の統合、そういう統合を前提にして、必ずそこには空く施設が出てくるので、図書館であったりパソコン教室を開いたり、また文化的な行事に使ったりと有効な利用をしていきたいと考えている。この統合は、地域の皆さんの気持ちが大変であるので、もう一度確認をして、また議会としっかり相談して進めていかなければならないと思っている。

少年サッカークラブの練習のようす



ウイナス内にあるトレーニング機器